



高齡化や医療技術の高度化により、医療費は年々増加の一途をたどり、国民健康保険財政は非常に

### ■ 厳しい国保財政

国保特別会計は、近年、加入者の

政の健全化を図り、財源を確保するため、保険税の収納率の向上に努めていますが、増加する医療費の支払いに対する財源不足は危機

このような状況から、国民健康

健康で生活していても、突然のけがや病気になり、多額の医療費がかかる場合があります。こうした場合、国民健康保険(国保)に加入していると、安心して診療が受けられます。国保は、私たちがお金を出し合い、助け合うことを目的とした相互扶助の制度です。今月は、厳しい国保の財政状況や医療費抑制の取り組みなどをお知らせします。

# 安心して生活するための国民健康保険制度 私たちが自身で守りましょう

## 市長随想 婁



狭山市市長 仲川幸成  
似顔絵・池原昭治氏

家族の絆(きずな)地域の絆を大切に

先日、戦没者の遺族の一人が私に語りかけてくれました。「今、100年に一度という厳しいときと聞いていますが、戦後のことを思えば...」と涙していました。私もそう思います。

戦争で肉親を失い、食糧に事欠き、生きることで自体に必死になったとき、60余年前、日本に

### ● 4月から 夜間診療を開始 初期救急医療体制を整備

1月19日、初期救急医療体制の新たな整備を図るため、狭山・入間の両市と両市医師会の4者で「初期救急医療体制の運営に関する覚書」を締結しました。



この締結で、4月から小児救急を含む夜間診療(19時30分~22時30分)が、狭山・入間の両市で1週間をとおして受けられるようになります。詳しい医療時間などは、広報さやま3月号やホームページなどでお知らせします。

問合せ健康推進課へ 2956 8050

### ● 安全・安心のまちづくり 「防犯のまちづくりに関する協定」を締結

1月23日、狭山市事業所防犯協議会と狭山市、狭山警察署が協調し、市民が安全で安心して暮らせる地域社会の実現を目的に協定を締結しました。今後、約200の地元事業者の皆さんと犯罪防止のための広報・啓発活動や連絡体制を確立させ、相互に情報交換を密にして、犯罪のないまちづくりを進めていきます。



問合せ交通防犯課へ内線3691

### ● 認知症を正しく理解し、応援する 認知症サポーターを養成

1月7日、市職員を対象に「認知症サポーター養成講座」を行いました。

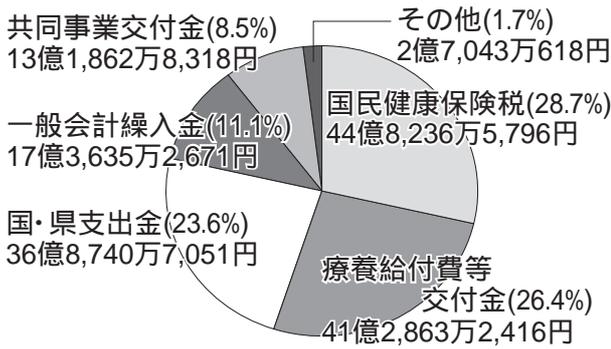
認知症サポーターは、認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の方やそのご家族を温かく見守りながら、自分のできる範囲で手助けや助言などを行う応援者です。

今後、民生委員・児童委員、自治会をはじめ、多くの市民の皆さんを対象に養成講座を実施していく予定です。

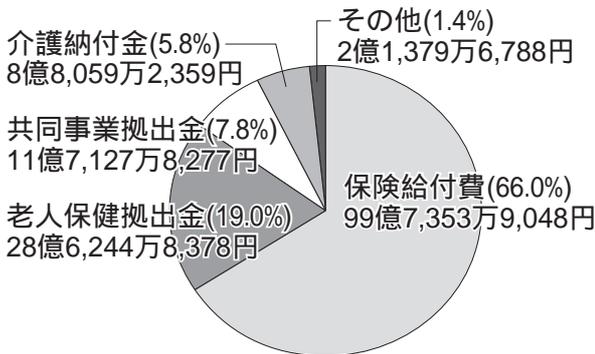
問合せ高齢介護課へ内線1554

# 平成19年度 国保会計の決算状況

**歳入 156億2,381万6,870円**



**歳出 151億165万4,850円**



共同事業交付金は、1件30万円以上の高額医療費に対する交付金で、医療費の6割が交付されます。県内市町村の拠出金などを財源に、県単位で費用負担を調整しています

## 保険給付費の推移

表1

年度	給付額
12年度	58億5,395万9千円
13年度	62億1,983万4千円
14年度	57億3,151万5千円
15年度	69億6,748万6千円
16年度	77億4,596万6千円
17年度	84億3,318万7千円
18年度	92億9,076万7千円
19年度	99億7,353万9千円

保険事業の安定化を図るため、平成20年度に国保税の税率改定などを行いました。依然として医療費の伸びが続いています。

■ **19年度決算 実質単年度収支額は10億円以上の赤字**

収入は、加入者が納めた保険税が全体の約29%で、一般会計繰入

金約17億円の内、約13億円を歳入不足分として繰り入れし、収支のバランスを保っています。

一方の支出は、前年より約10%増え、保険給付費は表1のとおり、平成12年度と比べて約41億円(70%)の増となっています。

形式的収支額は、5億2千216万円の黒字ですが、この黒字額から前年度の繰越金や歳入不足を補うための繰入金差し引くと、実質単年度収支額は、10億4千113万円の赤字となり、苦しい財政状況が続いています。

■ **国保財政の健全化と医療費抑制の取り組み**

● **特定健康診査を受診しましょう**  
医療費の増える要因の一つとさ

後発医薬品ジェネリック医薬品は、先発医薬品と同様に有効成分と効能、効果を持ち、研究開発費が抑えられるため、価格が2割から6割程度安い医薬品です。

ジェネリック医薬品の利用は、ご家庭の医療費負担を軽減するとともに、国保財政の安定的な運営にもつながりますので、積極的な利用をお願いします。

ジェネリック医薬品の使用については、医師や薬局の薬剤師に相談してください。

問合せ保険年金課へ内線1051

れる糖尿病などの生活習慣病の医療費を抑えるため、平成20年度から特定健康診査が始まりました。

高血圧症や糖尿病などの生活習慣病は、食生活の乱れや運動不足など、日常生活の悪習慣が原因となつて発症します。特定健康診査では、この生活習慣病の前段階であるメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の状態にある人や予備群となつている人を把握し、生活習慣の改善のための指導を行っています。

皆さんの健康と医療費の抑制のため、必ず受診をお願いします。

● **ジェネリック医薬品の利用を推進しています**

## 市長の主な動き

- 1/5...辞令交付式
- 1/8...県と市長会・町村会との新年懇談会
- 1/8・22...定例庁議
- 1/10...消防出初式
- 1/12...第55回成人式
- 1/15・23...白寿訪問
- 1/19...狭山市・入間市初期救急医療体制の運営に関する覚書調印式
- 1/20...埼玉県西部地域まちづくり協議会
- 1/23...防犯のまちづくりに関する協定調印式
- 1/24...中学生との対談
- 1/30・31...全国茶サミット静岡大会 in 牧之原
- 1/31...健康づくり講演会



ありました。当時、そうした境遇にいた方々にも、国の援助はほとんどなく、希望や生きる力となつたのは、家族、親族、地域でありました。戦後の歴史は、貧しさとの戦いでしたが、励まし、導き、喜びや苦しみを分かち合える土壌がありました。

私は、今年を絆の年として、家族の絆、地域の絆をより強くしてほしいと願っています。生活は豊かで、情報が豊富になり、他人に気を使わず、一人で生きていける社会が来たと思っている人もいるかもしれません。しかし、一人で心を通わすことはできません。人に会い、話をする事で相手を理解し、絆が結ばれます。

こうしたときだからこそ、家族や地域、団体、企業など、自分がかかわるすべてのところに絆を結んでほしいと願っています。